

画質と使い勝手で選ぶ

Photo : Nakamura Tohru

最新デジタルカメラ 購入ガイド

いよいよ夏のボーナス商戦が始まった。話題のデジタルカメラは次々と新製品が登場し、今年も各社で激戦となっている。昨年までは35万画素モデルが主力だったが、今年は130万画素オーバーの機種が新製品の大半を占めており、昨年までのデジタルカメラよりも明らかに高画質になっている。そこで、今年前半の新製品から注目すべき8機種を厳選してその実力をチェック。また、デジタルカメラ活用のノウハウも併せてお届けしよう。

伊達淳一

今年のデジタルカメラは、 130万画素オーバーが主力

カシオQV-10が大ヒットしてからわずか3年の間に、デジタルカメラは飛躍的な進歩を遂げられた。QV-10に使われていたCCDはわずか25万画素しかなかったが、今年的主力機種はメガピクセル(100万画素)よりも1ランク上の130万画素オーバーのCCDが使われている。

CCDの画素数が130万画素を超えてくると、1200dpiクラスのフィルムスキャナーでカラーネガフィルムを取り込むよりもクリアな絵が撮れる。キャビネサイズにプリントしても写真に匹敵するクオリティーが得られるのだ。

そういう意味では、デジタルカメラはもはや映像メモやホームページのイメージ素材用という限られた用途だけではなく、個人ユースなら従来のフィルムを使った銀塩カメラの代替品としても十分使える実用品になってきたと言える。

そこで、画質や使い勝手の優れた最新デジタルカメラを8機種厳選。その特徴と画質をクローズアップしてみた。それぞれの製品を比較して自分のニーズに合ったデジタルカメラを選んでほしい。



Let's Access!

付属CD-ROMに
画像データを収録!

誌面に掲載したサンプル画像データを、本誌付属のCD-ROMに収録した。誌面の都合上、どうしても画像を縮小して掲載しなければならないし、色も本物のデータとは違ってしまふ。そこで、必ずCD-ROMに収録している画像データを見ながら、記事を読んでほしい。そして、デジタルカメラを購入するときに役立ててほしい。サンプル画像データを見るには、CD-ROM内の「INDEX.HTM」ファイルをWWWブラウザで開き、トップメニューの「1」をクリックすればOKだ。



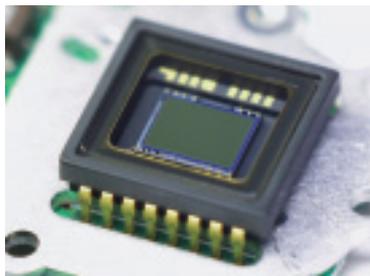
これだけは押さえておきたい 6つのチェックポイント

既存の銀塩写真システムは150年余の歴史を誇る。しかし、デジタルカメラの歴史は数年と短く、その性能や使い勝手は千差万別だ。そこで、デジタルカメラを選ぶときのポイントをお教えしよう。

Point

1 CCDの画素数で選べ

現在の普及型デジタルカメラをCCDの画素数でクラス分けすると、35万画素、81~109万画素、130万画素オーバの3ジャンルに分けられる。単純に画素数が多い=高画質とは言えないが、それでも画素数が多いほど大きくプリントして楽しめるし、画像の一部をトリミングできる余裕も出てくる。予算が許すなら81万画素クラスやメガピクセルクラスを選ぼう。



CCDの画素数が多ければ、それだけ被写体の細かな部分まで記録できるので、プリントしても高画質が得られる。

Point

2 液晶モニターだけでなく光学ファインダーもあると便利

最近のデジタルカメラは、大半が液晶モニターを搭載しているので、ビデオカメラ感覚で撮影できる。しかし、晴天の屋外など明るい場所では、液晶モニターは見にくくなるし、カメラのホールディングも甘くなる。また、バッテリーの消耗も大きいので、液晶モニターだけでなく、光学ファインダーも装備しているデジタルカメラのほうが便利だ。



液晶モニターは明るいところでは見づらくなるので、光学ファインダーがあると便利だ。また、液晶モニターをオフにすれば省エネにもなる。

Point

3 暗いところでもキレイに写せるか?

CCDの画素数がアップして、デジタルカメラの画質は飛躍的に向上した。しかし、その代償として感度が低くなり、室内ではストロボを使わないと満足に撮影できなくなってしまった。CCDのサイズを変えずに画素数をアップすると、光センサー1個あたりの受光面積が小さくなり、感度が低下してしまうのだ。画素数だけでなく感度もよくチェックしよう。



感度が低いデジタルカメラは、室内ではストロボが必須。しかし、喫茶店などストロボを使いたくない場所では、高感度のカメラが有利だ。

Point

4 デザインや携帯性で選べ

どんなに高画質のデジタルカメラでも、気楽に持って歩けなければ宝の持ち腐れだ。ポケットやカバンに入れて持ち歩けるか? 小型軽量化によって操作性が犠牲になっていないか? などをチェックしよう。また、カメラには、撮るだけでなく、所有するという喜びもあり、そういう意味では質感やデザインも数値には表れない重要なスベックだ。



どんなに高画質のデジタルカメラでも、撮りたいときに手元になければ無意味だ。買ったからには常に持って歩きたい。

Point

5 メモリーカードの種類と各種レスポンスをチェック

メモリーカードもカメラを選ぶときの重要なポイントだ。スマートメディアは、容量当たりの単価が安く、フラッシュバスというアダプターを使えば、3.5インチFDDで読み書きできる。一方、コンパクトフラッシュはすでに30Mバイトを超える大容量カードが存在し、価格もかなり安くなっている。また、液晶モニターのプレビュー表示や記録時間、起動時間なども要チェックだ。



付属しているメモリーカードの容量はさまざまだ。製品によっては、予備のメモリーカードが必須なものもある。

Point

6 オプションまで含めたトータルの価格で選べ

デジタルカメラで撮影した写真をパソコンに取り込むとき、本体とは別に、パソコン接続キットやPCカードアダプターなどが必要だ。また、標準で付属しているメモリーカードの容量が少なく、予備のメモリーカードが必須の製品や、ACアダプターや予備バッテリーといったオプションがあったほうが便利なケースも多い。こうした総額で価格を比較しよう。



デジカメライフをエンジョイするには、カメラ本体だけでなく、パソコン接続キットやACアダプターなどのオプションも必要だ。



デジカメを ホームページ作成に使うならここをチェック!

デジタルカメラがあれば、手軽にホームページに写真を載せることができる。ここでは、デジタルカメラで撮った写真をホームページに載せるときのポイントを紹介しよう。

大は小を兼ねる。ホームページ作成にも メガピクセルが有利

ホームページのイメージ素材として使うなら、35万画素クラスのデジタルカメラでもすでにオーバースペックだ。しかし、“大は小を兼ねる”という諺があるように、画素数の多いデジタルカメラのほうが基本的に有利だ。

たとえば、ズーム付きのデジタルカメラはまだ少なく、値段も高価だが、画素数の多いデジタルカメラなら画像の一部を切り取って拡大することもできる。130万画素クラスのデジタルカメラで撮影した画像を1/4サイズに切り取っても35万画素と同等以上の画質を維持できるのだ。

また、高画質モデルだからといって、必ずしも最大解像度で撮影する必要はない。ほ

とんどの高画質モデルにはVGA相当に解像度を落として撮影できるモードが備わっている。これで撮影しても35万画素クラスのデジタルカメラで撮影したものより色情報が豊かで、しかもシャープな絵が撮れる。

ちなみに、現在の130万画素モデルは進化し続けている真っ最中で、まだまだ感度が低く、手ブレしやすいのが欠点だ。しかし、VGA相当に解像度を落として撮影すれば、ちょっとしたブレやピンぼけは目立ちにくくなる。

したがって、予算が許すのなら、高画質モデルを選んだほうが、より長く多目的に使えるのだ。



イベントや展示会などで被写体に近づいて撮影できない場合でも、画素数の多い高画質モデルなら、画像をトリミングしても35万画素と同じ程度のクオリティは残っている。
写真：ビジネスショウ'98 NTTドコモブースにて

ウィンドウズとマッキントッシュでは 写真の明るさが違って見える

ホームページに写真を貼り込むときに注意したいのが、ウィンドウズとマッキントッシュのモニター表示特性(モニターガンマ)の差だ。

ウィンドウズで最適に見えるように調整すると、マッキントッシュでは黒の締まりが足りなく見え、マッキントッシュで最適に見えるように調整すると、ウィンドウズでは中間調からシャドー部分が暗く落ち込んで見える。どちらもまったく同じ画像データを表示しているにもかかわらずである。

残念ながら、ウィンドウズとマッキントッシュの両方で最適な明るさに見えるようにする方法はない。多くのウェブ

クリエイターたちはウィンドウズとマッキントッシュのちょうど中間に合わせているケースが多いようだ。

ただ、マッキントッシュにはモニターの表示特性を変えるための仕組みが標準で備わっているため、ウィンドウズのモニター表示特性

に合わせた画像も最適な状態で見るることができる。コントロールパネルの「モニタ&サウンド」あるいは青木康雄氏作成の「がんもどき」(<http://www.kani.com/bin/Gammo100.hqx>)を使えば、マッキントッシュのモニター表示特性を変えることができる。



同じ画像でもウィンドウズ(左)とマッキントッシュ(右)では明るさが違う。



デジカメをもっと便利にする サービス&グッズはこれ!

大枚を叩いてデジカメを買ったからには、とことん使いこなさなければ損! というわけで、デジカメをもっと便利にするサービスやアクセサリを紹介しよう。

長期保存に適した 銀塩プリントサービスをうまく活用しよう

35万画素ではサービスサイズのプリントでもちょっと甘めに感じる画質だが、130万画素を超える高画質モデルともなると、もはや写真以上に高精細で、プリントして十分楽しめる画質だ。というより、もはやデジタルカメラで撮った画像は、パソコンの全画面にフルカラー表示できないほど高解像度になったのだ。デジタルカメラが高解像度・高画質になってくると、当然、人々の関心はデジタルカメラからのプリント出力に集まってくる。パソコンに接続されたカラープリンターでプリントアウトするのがもっとも手軽な方法だが、1枚1枚プリントするのはそれなりの時間と手間

がかかる。

そこで、おすすめしたいのが、デジタルカメラからの銀塩プリントサービスだ。すでに全国のカメラ店では富士写真フィルムが提供するF-DIサービス(<http://www.fujifilm.co.jp/fdi/>)の受け付けが開始されているし、6月からは神奈川県内のセブン・イレブンでもデジタルカメラ・プリントサービスを開始した。また、デジプリ(<http://www.digipri.co.jp/>)では、早くからインターネットを使ったプリント宅配サービスを実施しており、なかなか好評だ。

インクジェットや昇華型プリンターで出力し



F-DIサービスのホームページには、サービスを利用できる店の一覧が載っている。

たものは、せいぜい14~5年で変褪色してしまうが、銀塩プリントなら50年以上は大丈夫。人にプレゼントする写真はできるだけ長持ちしてほしいだけに、こうした銀塩プリントサービスをうまく利用しよう。

デスクトップパソコンにも PCカードリーダーを増設しよう

最近のデジタルカメラは、メモリーカード記録が主流だ。PCカードスロットを搭載しているノートパソコンなら、メモリーカードをアダプターに装着して、PCカードスロットに挿し込むだけなので、データ転送も瞬時に終わる。しかし、問題はデスクトップパソコンだ。ケーブル接続でデータ転送を行っている人は多いが、シリアル転送は時間の浪費だ。スマートメディアならフラッシュバスというフロッピーディスクアダプターが使えるので、3.5インチFDDでデータを読み書きできる。シリアル転送よりは高速だが、それでも8Mバイトクラスのデータを転送するとすると10分近くかかる。

デジタルカメラが高解像度・高画質になってくると、メモリーカードの容量も今後ますます増えてくる。この状況に対処するには、デスクトップパソコンにもPCカードリーダーを増設するのがベストだ。最近では安価なPCカードリーダーも増えてきたので、高画質デジタルカメラを買うときには、こうしたPCカードリーダーも予算に入れておこう。



写真は、(株)インターマートシステムズ(<http://www.intermart.co.jp/>)のコンパクトフラッシュリーダー

PGD-OF30P-C(19,800円)

広角、望遠、マクロも自由自在の アタッチメントレンズを活用しよう

ほとんどのコンパクトカメラやビデオカメラはズーム付きが当たり前だが、デジタルカメラはまだまだ単焦点モデルが主流だ。しかし、より広く、より速くの被写体をアップで、より近くのを大きく撮りたいというのが自然な要求だ。そんな要求をかなえてくれるのが、レンズの前に装着するアタッチメントレンズだ。

ワイドコンバージョンレンズを付ければより広角に、テレコンバージョンレンズを付ければより望遠に、そしてマクロレンズを付ければより被写体に近寄って撮影できるようになる。

ただ、メーカー純正オプションとしてアタッチメントレンズが用意されている機種は稀で、そのほとんどがレイノックス(吉田産業)から発売されているものだ。もちろん、すべての機種でこうしたアタッチメントレンズが使えるわけではないので、デジカメを買うときにはアタッチメントレンズが使えるか否かも要チェックだ。



写真左は、ニコン純正のCOOLPIX900用アタッチメントレンズ、右は、レイノックスから発売されているFinePix700用のオプションレンズ。



最新 デジカメカタログ

テスト撮影の概要

ポートレート撮影
各機種の基本的な色・階調再現と描写力をチェックする。撮影はオートで、各機種の最高画質が得られるモードで撮影している。主なチェックポイントは、肌色再現や背景の樹木の緑、服の赤。もちろん、手に持っているカラーチャートで、グレーバランスや各色の色再現傾向もわかる。また、向かって右側の肩を見ると、ハイライトの階調再現性の違いが出ている。撮影日はあいにくの曇天だったが、写真的色温度は5500Kとさほど過酷な条件ではない。

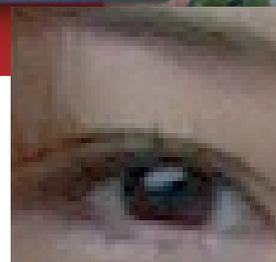
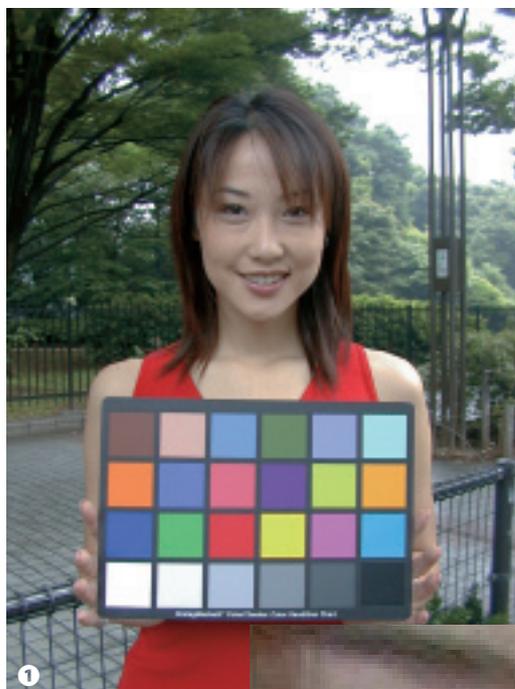
撮影アングルを選ばないシャープな写りの3倍ズームモデル

COOLPIX900

株式会社ニコン 110,000円

画素数 : 130万
問い合わせ先 : 03-3216-1010
URL : http://nikon.topica.ne.jp/ei_j/digicam/e900.htm

モデル：石黒都記子



Product Showcase

ズーム付きでとにかく高画質なデジタルカメラが欲しいならコレ。レンズがクルッと回転する構造になっているので、自分撮りはもちろん、ローアングルやハイアングルなど通常のカメラでは撮りにくいアングルからの撮影も楽にできる。また、収納時にはレンズを垂直に立てることでボディがフルフラットになり、大きめとはいえカバンなどへの収納性は高い。オリンパスC-1400Lではちょっと持ち歩くのが大変という人にはピッタリの機種だ。

光学ファインダーやストロボもレンズユニット側に組み込まれているので、常時使用できるのは立派。液晶モニター表示も非常にめづらから、メモリーへの記録もこのクラスのカメラとしてはかなり速い。

35mm一眼レフのように、絞りやシャッター速度を自分で設定することはできないもの



の、表現のためのカスタム機能は豊富だ。測光方式は、マルチパターン、中央重点、スポットの3種類。ホワイトバランス設定もオート以外に5種類のプリセットを搭載。スローシンクロ撮影も可能だ。また、オプションで24mm相当のワイドコンバージョンレンズや魚眼レンズも用意されている。

自由なアングルから撮影できる回転式レンズとそのシャープな描写が魅力。ただ、ほかの130万画素モデルに比べ、ハイライトが白飛びしやすいのが気になる。

3倍ズーム機としては収納性がよく、レンズ部回転機構を活かした奇抜なアングルからの撮影が楽しめる。写りもシャープだ。

×
コントラストの強い被写体を写すと、ハイライトが不自然に白飛びする傾向がある。省エネのため30秒ほどでサスペンドしてしまう。



低照度の撮影能力

最近の高画質モデルは軒並み感度が低下しており、室内など明るさが不足するシーンに弱くなっている。そこで、一定の速度で回転するチャートを撮影することで、低照度での撮影能力の優劣を比較してみた。チャートのブレが少ないものほど、ストロボなしでもブレずに撮影できるというわけだ。

マクロ撮影能力

デジタルカメラは初心者でも手軽にマクロ撮影が楽しめるのが魅力だ。そ

こで、各機種で名刺にどれだけ寄って、どれだけ範囲を写せるかをテストしてみた。また、名刺は白く、オートのままでは露出不足になってしまうので、露出補正ができるものは露出補正をかけている。

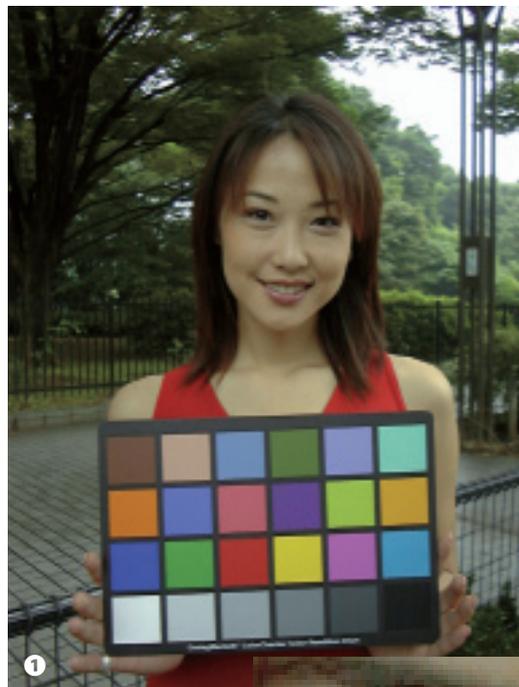
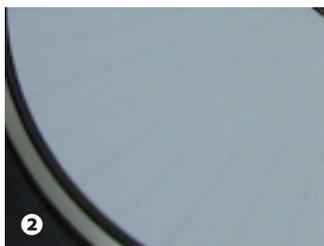
誌面の都合上、どうしてもサンプル画像データは縮小して掲載しなければならないし、色も本物のデータとは違ってしまふ。そこで、デジタルカメラの性能を正確に把握するためにも、必ずCD-ROMに収録している画像データを見ながら記事を読んでほしい。

光の色を写し取れる高品位でコンパクトなデジカメ

FinePix700

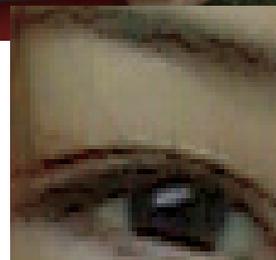
富士写真フイルム株式会社 99,800円

画素数 : 150万
問い合わせ先 : 03-3406-2981
URL : <http://www.fujifilm.co.jp/fx700/>



①

非常に階調レンジが幅広く、コントラストの強い被写体でも破綻しにくい。ホワイトバランスは太陽光固定なので、曇天の日や蛍光灯下では色がくすみがちだ。



コンパクトで携帯性に優れ、なおかつ高画質なデジタルカメラを求めるなら、FinePix700が一番。コンパクトだからといって、画質や機能はまったく犠牲にしておらず、光学ファインダーやストロボも搭載する。CCDは1/2インチと大きいので、感度やS/N(シグナル/ノイズ)面で有利だ。

ホワイトバランスは太陽光固定+プリセットなので、光の色にナーバスに反応する。従来のCLIP-ITシリーズに比べると、鮮やかさを抑えた上品な色再現で、パッと見た目の鮮烈さには欠けるが、階調レンジが広いので、レタッチ素材としては優れている。

十字キーで4倍までのズーム再生ができるのは秀逸。ピンぼけやブレのチェックに便利だ。時刻表など細かな文字もしっかり読み取れる。

電源は専用のリチウムイオンバッテリーで、付属するACアダプターを接続すれば約7時間で



③

充電が完了する。また、バッテリーは予想以上に長寿命で、液晶モニターを付けっぱなしにしたり、ストロボを多用しなければ30~40枚は余裕で撮れる。とはいえ、バッテリーが切れたらそれまでなので、予算が許せば、予備バッテリーと高速充電器を同時に購入したいところだ。



持つことの喜びを感じさせる高級感のあるメタルボディ。傷を付けないためにも、オプションの革ケースもぜひゲットしたい。

標準で付属しているのはお試し版の2Mバイトカードで、まったくないよりはマシという感じ。ピントを合わせ中は液晶モニターが消えてしまう。



バランスの良さとコストパフォーマンスの高さが光る

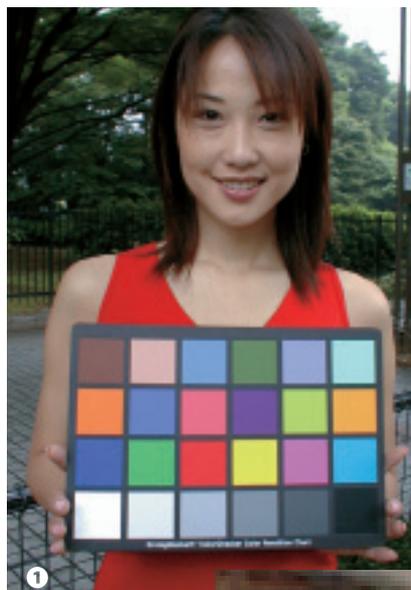
CP-600

セイコーエプソン株式会社 84,800円

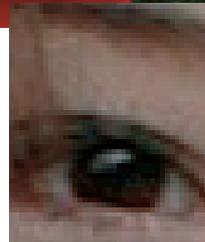
画素数 : 130万
問い合わせ先 : 0424-99-7133
URL : <http://www.i-love-epson.co.jp/products/tp/camera/cp600/cp600.htm>



② 高感度モードにして撮影



① C-840LとCOOLPIX900のちょうど間を取ったような画質傾向で、130万画素モデルの中ではもっともバランスがよい。わずかに青を強くしているのもクリアな感じだ。



CFカードは別売だが、4Mバイトの内蔵メモリーを搭載し、接続キットやソフトも付属しているので、オプションを買わずにデジカメライフを楽しめる。

メニューは体系立ててきちんと整理されているが、ボタンの操作とカーソルの移動に違和感があり、違うボタンを押してしまいがち。



ズバ抜けた優等生ではないが、すべてにそつがなくバランスよくまとまっているのが、CP-600。4Mバイトの内蔵メモリーとCFカードスロットを備えていて、接続ケーブルや転送ユーティリティ、デジタルカメラ活用ソフトも標準で付属する。CCDやレンズなどのスペックは、オリンパスのC-840Lと酷似しているが、記録メディアとして大容量のCFが使える、露出補正も0.75EVステップ±1.5EVと細かい。また、ホワイトバランスを太陽光固定にロックできたり、高感度モードを備えているので、暗い場所での手持ち撮影に強いなどのアドバンテージを誇る。



アルカリ電池は緊急用。普段は充電電池を使おう！

デジタルカメラは、フィルム代や現像料が不要な夢のようなカメラだが、電池代だけは従来のカメラ以上にかかる。しかも、そのほとんどが値段の高いアルカリ電池を湯水のごとく消費するのだからたまったものではない。実は、デジタルカメラとアルカリ電池はあまり相性が良くないのだ。

というのも、デジタルカメラは一時的に大電流を必要とするが、大半のアルカリ電池はこう

した特性にマッチしていない。では、どうすればいいのか？

答えは、ニッカドやニッケル水素充電電池を使うことだ。これらの充電電池は、内部抵抗が少ないので大電流を流すのが得意だ。そのため、デジタルカメラではアルカリ電池よりも長寿命だし、繰り返し使えるのでランニングコストも安い。したがって、アルカリ電池は電池が切れたときの緊急用と割り切り、普段は充電電池を使う

のが賢明だ(ただし、ニッカドやニッケル水素充電電池はメーカー保証外のこともある)。



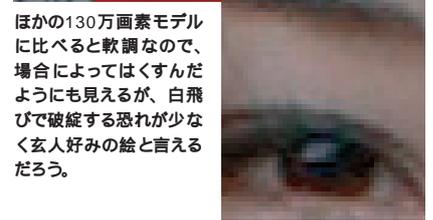
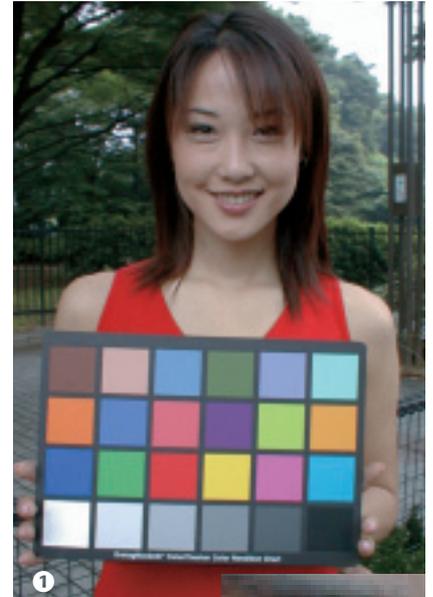


軽快な動作でオプション群も充実。総合力が魅力

C-840L

オリンパス工学工業株式会社 84,800円

画素数 : 131万
問い合わせ先 : 0426-42-7499
URL : <http://www.olympus.co.jp/LineUp/Digicamera/c840l.html>



白飛びしないよう軟調な階調特性に味付けされており、一見メリハリのない画像に見えるが、適切なレタッチで高画質を引き出せる。



露出補正が±1.3EVとアバウト。また、電源を切るとストロボモードが自動発光に戻ってしまう。

とにかく高画質で、誰にでも手軽に使えるデジタルカメラなら、オリンパスC-840Lがおすすめ。銀塩コンパクトカメラによく似たデザインで、レンズバリアを開ければ約2秒で撮影可能だ。

記録メディアは3.3Vのスマートメディアで、ウィンドウズユーザーならフラッシュバス(3.5インチフロッピーディスクアダプター)が利用できる点は便利。新発売の16Mバイトカードにも対応している。

防水、防塵プロテクターやレイノックスから発売されているワイコン/テレコン、マクロレンズセットといったオプションが充実している点も、C-840Lならではのアドバンテージだ。

ほかの130万画素モデルに比べると軟調なので、場合によってはくすんだようにも見えるが、白飛びで破綻する恐れが少なく玄人好みの絵と言えるだろう。



デジタルビデオカメラはデジカメの代わりになるか？

デジタルビデオカメラ(以下、DVカメラ)には、静止画撮影機能が備わっているものが多いが、果たしてデジタルカメラの代わりになるのだろうか？

DVカメラの映像をDV端子経由でパソコンに取り込むと、720×480ピクセルの画像が得られるが、縦横比を補正する必要があるため、実質的には640×480ピクセルと、35万画素クラスのデジタルカメラと同じ画像サイズになる。

ただし、DVカメラは、インターレースで画像を記録

しているため、動くものを静止画として取り込むと、垂直解像度が半減してしまう(パナソニックDJ-1とDJ100、キヤノンMV1、ビクターGR-DVLの4機種だけは、垂直解像度が低下しないモードを搭載している)。

もっとも、DVカメラはどれも10倍以上のズームレンズを搭載しており、遠くの被写体もアップで写せることを考えると、できるだけ高速シャッターを使ってカメラを振り回さずに撮影すれば、35万画素クラスの代わりとして使うことは十分可能だ。



35万画素クラス以上の静止画撮影が可能な「キヤノンMV1」(235,000円)



青空や肌色がキレイに写る使いやすいデジカメ

DC210A Zoom



非常に軟らかな階調と深みを感じさせる色再現が魅力。少し暗めに感じるなら露出補正を活用しよう。撮影後に記録をキャンセルできるのも便利。

レンズが明るくないので、室内でのノーストロポ撮影は難しい。また、液晶モニターのプレビュー表示も他機種に比べるとやや粗い。

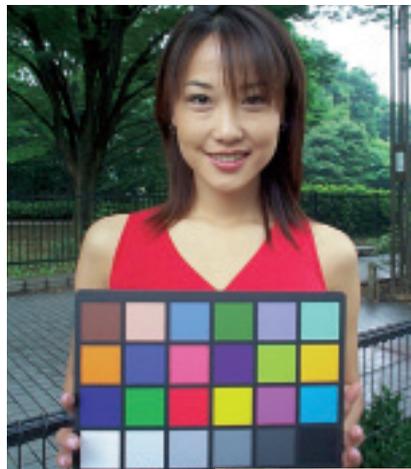


29 ~ 58mm とワイドに強い12倍ズームと色、階調再現の良さが魅力。ピント固定のパンフォーカス方式なので、遠景の描写は甘めだが、誰が使ってもひどいピンぼけにならないので、ファミリースナップには最適だ。

従来のDC210ズームとからの主な変更点は、8Mバイトカードを標準添付、メニューの日本語化、テンプレート合成機能、日付埋め込み機能、ボディーカラーの変更、20%の省エネ化など。

日本コダック株式会社 79,800円

画素数 : 109万
問い合わせ先 : 03-5644-5050
URL : <http://www.kodak.co.jp/DAI/9d4000f1.shtml>

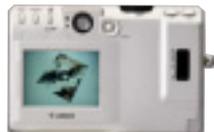


109万画素の描写としてはやや甘くシャドー部のノイズも多めだが、非常に鮮烈な色再現が魅力。階調再現もめめらかさも特筆ものだ。

Product Showcase

高級コンパクトの風格を持った暗さに強い奴

PowerShot A5



IXYを意識したコンパクトな金属ボディーで、レンズも中央にレイアウト。感度も高く、スナップには最適。8Mバイトカードや接続キットが同梱されている

AFの精度は高いが、測距スピードが一定ではなく、3~4秒かかることもある。また、電源は2CR5型リチウム電池で、別売の電源キットは必須だ。



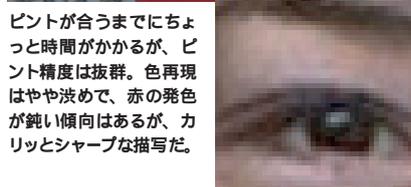
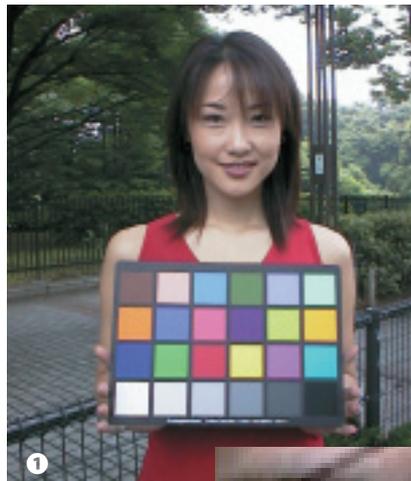
Smallモードにして撮影

「ライブはIXY」というにはちょっと大げさな気もするが、レンズがボディーの中央にあり、ダイヤルを撮影モードに切り換えると自動的に電動バリアが開いてレンズがせり出してくる。しかも、ボディーはフルメタル外装で、この感触は間違いなく高級銀塩コンパクトそのものだ。

色再現は少し渋めだが、感度が高く、カリッととしたシャープな写りが特徴で、室内でもノーストロポで結構写る。SmallモードではISO400まで感度アップする。

キヤノン販売株式会社 74,800円

画素数 : 81万
問い合わせ先 : 043-211-9556
URL : <http://www.canon-sales.co.jp/Product/PowerShot/ps-a5.html>

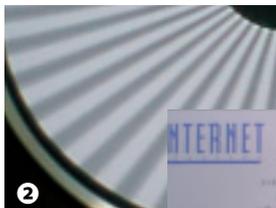


ピントが合うまでにちょっと時間がかかるが、ピント精度は抜群。色再現はやや渋めで、赤の発色が鈍い傾向はあるが、カリッとシャープな描写だ。



35万画素の決定版！ 即写・即再生が魅力

DSC-V100



これだけ金をかけた35万画素はもう登場しないかもしれないという究極の機種がDSC-V100。カードサイズに迫るコンパクトボディに専用ワンチップLSIを搭載。画像の処理を高速ハード処理とすることで、記録・再生とも約1秒というレスポンスを実現。また、0.1秒間隔で15枚の高速VGA連写ができるほか、最大10秒間の音声付き動画も撮影可能。DSC-V100ならではの4秒間のボイスメモ機能も健在だ。

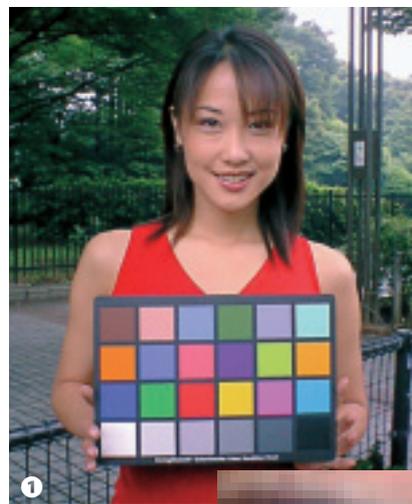
きわめて鮮やかな色再現が特長で、見ているだけでなんだかハッピーな気分になれるほど。充電池セットも標準で付属する。

あまりにもボディがコンパクトなので、レンズに左手の指がかかってしまいやすい。また、35万画素モデルとしてはやや割高。



三洋電機株式会社 58,000円

画素数 : 35万
 問い合わせ先 : 0720-70-4184
 URL : <http://www.sanyo.co.jp/AV/DSC/>

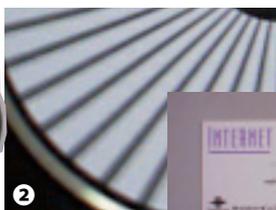


きわめて鮮やかな色再現で、特に赤の発色がよいので健康的な肌色に写るのが特徴。35万画素としてはとてもシャープで、35万画素トップの写りだ。



パノラマ合成や簡易動画機能を搭載した

QV-770



Smallモードにして撮影



初代QV-10のコンセプトをもっとも色濃く受け継いだQVシリーズの最高傑作がコレ。レンズ部回転機構をはじめとするQVならではの楽しさやおもしろさがさらにアップされており、マルチ画面連写を利用した簡易動画機能や、カメラ内部でのパノラマ合成機能、各種おもしろフィルターを搭載する。

また、記録・再生も驚くほど軽快。非常にポップな色再現で、比較的暗い場所でもキレイに写る。

撮影中に瞬時に操作できる露出補正はとも使いやすい。別売のパソコンリンクソフトで、パノラマ合成やアニメーションGIFも簡単に作成できる。

今回取り上げた機種の中では唯一内蔵メモリー記録専用。軽快に撮影できるのは快適だが、アッという間に撮影残数がなくなってしまう。



カシオ計算機 53,000円

画素数 : 35万
 問い合わせ先 : 03-5334-4828
 URL : http://www.casio.co.jp/productnews/qv_770.html



暖かみのあるポップな色再現で、かつてのQVシリーズとはまるで違う鮮やかな色再現が魅力。ただ、シャープネスが低く、細かな文字はほとんど読み取れない。





最新デジタルカメラスペック一覧

製品名	COOLPIX900	FinePix700	CP-600	CAMERA C-840L	DC210A Zoom	PowerShot A5	DSC-V100	QV-770	
メーカー名	株式会社ニコン	富士写真フイルム株式会社	セイコーエプソン株式会社	オリンパス光学工業株式会社	日本コダック株式会社	キヤノン販売株式会社	三洋電機株式会社	カシオ計算機株式会社	
本体価格	110,000円	99,800円	84,800円	84,800円	79,800円	74,800円 (バリュースキット価格)	58,000円	75,000円	
実売価格	89,800円	79,800円	59,800円	59,800円	52,800円	59,800円	44,500円	39,800円	
シリアル接続キット価格	16,000円	7,000円	本体付属	10,000円	14,800円	本体付属	10,000円	4,800円	
PCカードアダプター価格	2,500円	10,000円	-	10,000円	-	3,500円	-	-	
フラッシュバス価格	-	12,000円	-	12,000円	-	-	12,000円	-	
ACアダプター価格	5,400円	本体付属	3,500円	4,500円	4,500円	4,500円	4,000円	4,000円	
サイズ(W×H×D)	157×75×35	80×101×33	144.2×69.8×49.3	128×65×45	131×48×82	103×68×32.5	106×61×35	147×69×50	
重量	360g	245g	280g	245g	320g	230g	200g	290g	
撮像素子	CCDサイズ	1/2.7インチ	1/2インチ	1/2.7インチ	1/2.7インチ	1/3インチ	1/3インチ	1/4インチ	
	画素数	130万	150万	130万	131万	109万	81万	35万	
画像フォーマット	JPEG(Exif2.0)	JPEG(Exif2.0)	JPEG	JPEG	JPEG, FlashPix	CIFF	JPEG(Exif2.0), AVI	JPEG	
記憶メディア	種類	コンパクトフラッシュ	スマートメディア	内蔵フラッシュメモリー、コンパクトフラッシュ	スマートメディア	コンパクトフラッシュ	コンパクトフラッシュ	スマートメディア	
	標準添付品容量	4M	2M	4M	8M	8M	4M	4M	
撮影枚数 (標準添付品 使用時)	最高画質モード	6枚	2枚	6枚	18枚	24~53枚	44枚	30枚	
	高画質モード	12枚	5枚	13枚	36枚	33~73枚	89枚	60枚	
	標準モード	24枚	11枚	43枚	122枚	49~112枚	125枚	120枚	
	エコノミーモード	-	-	-	-	-	236枚	-	
レンズ	焦点距離(35mm換算時相当)	38~115mm	35mm	36mm	36mm	29~58mm	35mm	43mm	
	絞り値	F: 2.4~3.6	F: 3.2/8	F: 2.8/5.6/11	F: 2.8/5.5/11	F: 4.0~13.5(広角) F: 4.7~16(望遠)	F: 2.5~11	F: 2.8/8	F: 2/8
フォーカス	オートフォーカス	オートフォーカス	オートフォーカス	オートフォーカス	マニュアル	オートフォーカス	マニュアル	マニュアル	
シャッタースピード	1/4~1/750秒	1/4~1/1000秒	1/2~1/500秒、1/30~1/500秒(ストロボ使用時)	1/2~1/500秒	1/2~1/360秒	1/6~1/750秒	1/4~1/10,000秒	1/8~1/4000秒	
露出制御	AE	AE	AE、補正可(±2段階) 約0.75EV/ステップ	AE、±1.3EV	AE	AE	AE	AE	
ホワイトバランス	オート、マニュアル	5500K固定(マニュアル時は5段階切り替え)	オート、固定(太陽光)	オート	オート	オート	オート	オート、固定	
感度	ISO64相当	ISO100相当	ISO60相当、高感度時ISO120相当	非公開	ISO140相当	LargeモードISO100 SmallモードISO200	ISO140相当	ISO150相当	
光学ファインダーの有無									
ストロボの有無									
液晶モニター	2インチTFTカラー	2インチTFTカラー	2インチTFTカラー	2インチTFTカラー	1.8インチカラー	2インチTFTカラー	2インチTFTカラー	1.8インチカラー	
電源	種類	単3形アルカリ乾電池、単3形ニッケル水素電池、単3形リチウム電池、ACアダプター	充電式リチウムイオンバッテリー、ACアダプター	単3形アルカリ乾電池、単3形ニッケル水素電池、単3形リチウム電池	単3形アルカリ乾電池、単3形ニッケル水素電池、単3形リチウム電池、ACアダプター	単3形アルカリ乾電池、単3形ニッケル水素電池、単3形リチウム電池	リチウム電池(2CR5)、充電式NiMH電池、ACアダプター	単3形ニッケル水素電池、ACアダプター	単3形アルカリ乾電池、単3形リチウム電池
	本数	4本	1本	4本	4本	4本	2本	2本	4本
パソコンへの接続方法	シリアルケーブル	シリアルケーブル	シリアルケーブル	シリアルケーブル	シリアルケーブル、赤外線通信(IrDA1.0)	シリアルケーブル	シリアルケーブル	シリアルケーブル、赤外線通信(IrDA1.0準拠 IrTran-P対応)	
付属画像編集ソフト	-	-	Hot Shots、デザインコラージュ、変身スタジオ!! プリアミーゴLE	Kai's photo soap	-	Adobe Photoshopプラグインモジュール、iPhoto Express、PixeColor Player	-	-	
付属品	コンパクトフラッシュ(4MB)、ソフトケース、ストラップ、ビデオケーブル、単3形アルカリ乾電池4本	スマートメディア(2MB)、ビデオケーブル、充電式リチウムイオンバッテリー、ACアダプター	シリアル接続キット、ビデオケーブル、単3形アルカリ乾電池4本、ケース、ストラップ	スマートメディア(8M)、ケース、ストラップ、単3形アルカリ乾電池	コンパクトフラッシュ(8M)、ビデオケーブル、ストラップ、単3形アルカリ乾電池	シリアル接続キット、コンパクトフラッシュ(8M)、ビデオケーブル、ストラップ、単3形リチウム電池	スマートメディア(4M)、ビデオケーブル、ケース、ストラップ、単3形ニッケル水素電池2本、充電地専用充電器	単3形アルカリ乾電池4本、ケース、ストラップ	
問い合わせ先	03-3216-1010	03-3406-2981	0424-99-7133	0426-42-7499	03-5644-5050	043-211-9556	0720-70-4184	03-5334-4828	
URL	http://nikon.topica.ne.jp/ei_j/digicam/e900.htm	http://www.fujifilm.co.jp/	http://www.i-love-epson.co.jp/	http://www.olympus.co.jp/LineUp/Digicamera/c840L.html	http://www.kodak.co.jp/DAI/9d4000f1.shtml	http://www.canon-sales.co.jp/Product/PowerShot/ps-a5.html	http://www.sanyo.co.jp/AV/DSC/	http://www.casio.co.jp/QV-Magazine/Info/qv_770/	

実売価格は6月16日現在のものです。

各記憶メディアの実勢価格表

コンパクトフラッシュ

品名	容量	価格	実売価格
PCCF-4MS	4Mバイト	9,500円	6,600円
PCCF-10MS	10Mバイト	15,500円	11,600円
PCCF-15MS	15Mバイト	20,500円	13,600円
PCCF-20MS	20Mバイト	25,500円	17,600円
PCCF-30MS	30Mバイト	39,500円	27,600円
PCCF-40MS	40Mバイト	48,000円	35,600円
PCCF-48MS	48Mバイト	56,000円	42,600円

スマートメディア

品名	容量	価格	実売価格
PCFDCII-4M	4Mバイト	6,800円	4,800円
PCFDCII-8M	8Mバイト	9,800円	5,980円
MG-16S	16Mバイト	15,000円	

ここで取りあげた記憶メディアは株式会社アイ・オー・データ機器のものです。
16Mバイトのスマートメディアのみ富士写真フイルム株式会社のものです。



夏のボーナス商戦を目前に 続々と発表されるニューモデル

本稿執筆時は夏のボーナス商戦間近とあって、各社からニューモデルの情報が次々と飛び込んできた。各製品の詳細なスペックは、誌面が限られているので各社のホームページを参照していただくとして、ここではどこが魅力なのかをピックアップしてみた。

コストパフォーマンス最重視モデル FinePix500 & CLIP-IT50

この夏のデジタルカメラ市場に一波乱起こしそうなのがフジFinePix500。74,800円と130万画素オーバーの機種では驚異的な低価格ながら、レンズやCCDは、人気絶頂のFinePix700とまったく同じだ。つまり、画質面では700と同等以上で、電源は汎用の単3電池4本。バッテリー持続時間も長くなっている。その代わり、700よりも外装がチープにな

り、液晶モニターも小さくなった。また、メモリーへの記録時間なども若干長くなるなど、多少レスポンスが低下した部分もある。

CLIP-IT50は、DS-20の後継機にあたり、凹レンズや凸レンズなどユニークな変形フィルターを搭載する。色と階調再現のよさはDS-20譲りで、これまたコストパフォーマンス抜群の35万画素モデルだ。



富士写真フイルム株式会社
FinePix500(74,800円：写真)
CLIP-IT50(39,800円)

世界初 Digita OSを搭載した DC260 Zoom & DC220 Zoom

コダックの2機種は、デジタルカメラ用OSのDigita(デジタ)を世界で初めて採用。擬似シャッター音、45秒の音声メモ、長時間露出、外部フラッシュ同調(DC260 Zoomのみ)、縦位置撮影時に写真を自動的に回転して記録できる縦横センサー、ユーザーカスタマイズが可能な自動スクリプト言語など、他機種にはない個性的な機能を備えている。お

手軽簡単路線のDC210A Zoomに比べると、機能重視の半業務向けモデルで、マニア受けしそうなデジタルカメラだ。両機種の違いは主としてCCDとレンズ周りで、DC260 Zoomは1/2インチ160万画素CCDで3倍AFズームを搭載、DC220 Zoomは1/3インチ109万画素CCDでパンフォーカスの2倍ズームを搭載している。



日本コダック株式会社
DC260 Zoom(128,000円：写真)
DC220 Zoom(88,000円)

反射式液晶モニターを搭載した Allegretto 5

カメラの裏蓋を開けるとダイレクトにPCMCIA TypeのPCカードスロットに挿せるAllegrettoが大幅にリニューアルした。背面には、デジタルカメラでは初めて2.5インチ反射型液晶モニターを採用している。撮像素子は従来同様、35万画素CMOSセンサーを搭載しているが、感度とダイナミックレンジが2倍になっているという。携帯性とバッテリーの持続時間が長いのが特徴だ。また、Allegretto 5と同時に発表されたM1は、150万画素CCDを搭載した高画質モデル。外観デザインは異なるが、スペックはFinePix500と同等だ。



株式会社東芝
Allegretto5(49,800円：写真)
AllegrettoM1(79,800円)

リニューアルして色再現性がアップ Q-M100V

100万画素の夜景というキャッチコピーで高感度をアピールしていたQ-M100もマイナーチェンジ。CCDの画素数は従来と同じ108万画素だが、フィルターを補色系から原色に変更することで色再現がアップした。また、オートホワイトバランスの安定性が向上しており、価格も3万円引き下げられている。



コニカ株式会社
69,800円

プログレッシブスキャンCCD採用で垂直解像度が向上 デジタルマビカ MVC-FD71

3.5インチFD記録と10倍ズーム、リチウムイオンバッテリーによる長時間スタミナ撮影が魅力のデジタルマビカもリニューアル。従来機はビデオカメラ用のメカをそのまま流用していたため、動体撮影時には垂直解像度が半分に低下してしまっていたが、今度の新製品はプログレッシブスキャンCCDを採用することで、この問題を回避している。また、フロッピードライブが2倍速になり、記録時間も半分以上になっている。



ソニー株式会社
MVC-FD71(オープン価格)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp